

出荷前および輸送中のスクロースと抗菌剤処理による バラ切り花の品質保持期間延長

バラの切り花は糖質の不足と水分収支の悪化により品質期間が短縮することが知られていますが、国産花きの安定的な需要確保を図るためには、高品質で日持ちの良い花きの供給が求められています。そこで、(独)農研機構花き研究所では、近年、普及しつつあるバケツ輸送を利用して、出荷前および輸送中のスクロースと抗菌剤処理により、バラ切り花の品質保持期間が延長できることを明らかにしましたので、その概要について紹介いたします

☆ 技術の概要

1. 薬害が発生しやすいバラ「ローテローゼ」に対し、2%または4%スクロースと抗菌剤(5.7mg/Lの5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オンおよび50mg/L硫酸アルミニウムを含む)を組み合わせた薬剤を、出荷前に10℃で24時間および輸送シミュレーション中に15℃で48時間処理することにより、バラ切り花の品質保持期間は3倍以上延長し、花径、新鮮重も増加しました。また、バラ「サフィア、シャネル、ニューブライダル、マイスノー」の切り花においても、2%スクロースと抗菌剤の処理により、品質保持期間は有意に延長し、花径も増大しました。
2. スクロースと抗菌剤処理バラを輸送環境の異なる北海道、和歌山県および千葉県から実際の流通ルートで東京の市場へ輸送したところ、いずれも品質保持効果が実証されました。

表1 バラ「ローテローゼ」切り花の品質保持に
及ぼす各種薬剤処理の影響

処 理	品質保持 期間(日)	花 径 (mm)※	最大相対 新鮮重(%)
蒸留水	2.1	86.8	106.0
蒸留水→乾式	2.0	87.6	102.8
抗菌剤	3.5	100.3	110.1
2%スクロース+抗菌剤	7.4	108.4	116.0
4%スクロース+抗菌剤	9.4	111.3	117.1

最大相対新鮮重：処理開始時に対する相対値

※花径：品質保持検定後3日目に測定



図1 バラ切り花の品質保持期間延長効果の実証
(品質保持検定開始後、6日目の状態)

☆ 活用面での留意点

1. スクロース濃度が高く処理時の相対湿度が低いと、葉に薬害が発生する場合があります。スクロースによる薬害の発生はスクロース濃度を2%以下とし、相対湿度を90%程度とすることで防ぐことができます。
2. 本成果をもとに開発された品質保持剤が、2008年より民間メーカーから産地限定的に販売される予定です。
3. 詳しいことは、花き研究所花き品質解析研究チーム(電話 029-838-6801)へお問い合わせください。(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)